

令和2年度 小山町立すばしりこども園評価「自己評価」

小山町立すばしりこども園

1 園目標

富士のもと 心豊かな たくましい子

〈自分を発揮できる子〉〈思いやりのある子〉〈元気に遊ぶ子〉

2 重点目標及び具現の方策

「意欲をもって遊べる子」の育成

〈具現の方策〉

- ・乳幼児一人一人の思いに寄り添い、その子なりの特性や発達を捉え、自己発揮できる援助を工夫する。
- ・様々な直接体験や感情体験をとおり、保育者や友達の話しに興味・関心をもって自ら遊び出せるような保育を考える。
- ・家庭や地域（人や物）とのつながりを密にし、教育・保育効果を高めていく。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	職員アンケート結果	保護者アンケート結果
教育目標・園目標	B		B	A
教育課程・保育計画	B	・新型コロナ対応もあり、見通しが持ちづらいところがあった。	B	A
保育指導	B		B	B
研修	B	・研修時間の確保が難しかった。	B	
特別支援教育	B	・職員間の共有がもう少しできるとよかった。	B	
安全管理	B		B	A
保健管理・食事	B		B	A
組織運営・情報管理	B		B	B
情報提供	B	・ホイクトをもっと活用して	B	B

		園の様子など伝えていき たい。		
保護者・地域との連携	B	・今年度は難しかったがそ の中では努力できたと 感じる。	B	B
子育て支援	B		B	B
施設設備	B		B	A

- (注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが、成果が十分ではない、D：取組が不十分である」
- 2 「職員アンケート結果」は項目別評価用アンケートを集計したものである。
- 3 「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートのうち「わからない」と回答したものを除いて集計したものである。
- 4 「項目別評価」は、「職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、職員で話しあって決定したものである。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
保育の見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「全園児を全職員で保育する」気持ちをもって保育するために、両園舎間の保育の共通理解をしたり、環境構成図により「今日の保育」がどのように展開されているかを共有できるようにしたい。 ・園の保育を保護者にもっとわかっていたかのように、今週の保育の提示や、おたよりやホイクトにて保育を伝えていくようにする。
園内研修の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は自分たちが学んだり、共通理解する場として必要なことを職員ほとんどが感じているので、研修の時間確保や、研修スタイルを工夫して（グループ研修・テーマ別研修など）職員間の思いの共有・学びにつなげていきたい。 ・保育の「隙間時間」が見えてきたので、その時間を有効活用できるよう次年度計画をたてたい。
報・連・相と情報管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員と一緒に情報交換することは難しいので、報告や連絡の方法を、わかりやすく明確に伝えていけるよう、文書化・可視化を進める。 ・ホイクトの活用方法の効率化を図りたい。 ・タブレットを共有ツールとして役立てたい。
新しい生活様式	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として留意すべきことについて、保育で習慣化することや環境変化することを見極めなが

	<p>ら進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の動きや情報をしっかり把握し、保育の中でどのような生活の在り方が望ましいかを検討・実施していきたい。
--	--

5 評価全体を通して

- ・分離型こども園としてスタートした1年、新型コロナウイルス対応も重なり、保護者と直接話したり、情報共有することが難しく、新しい生活様式を取り入れながら理解していただくよう努めてきた。保護者アンケート結果からこども園になって初めての年度としては、温かいご理解とご協力をいただけたことを実感することができた。
- ・職員間では「1つの園として考えたい。」「全園児を全職員で育成する」という思いが職員間に浸透し、思いの共有や情報の共通理解を求める姿が増え、園内研修の必要性・重要性を感じるが多かったと感じる。1年というサイクルを経験して見つかった「隙間時間」の活用方法を、次年度の保育に活かしていきたいと考える。
- ・スタートして初めての年の評価としては、職員数に余裕がなく、保育形態の変化に応じて朝・夕の保育園児が増え、延長保育園児も増え、職員の疲労を感じたが、そんな中での職員の努力が伝わってくる結果だと感じている。課題もたくさん見付き、これからの保育の向上につながる具体策も出ているので、一つ一つ解決しながら今後の保育計画を進めていきたいと感じる。
- ・地域との連携が現在の状況では少し消極的ではあるが、須走地区の乳幼児の教育保育施設として園からの「発信」できる事を今後も心がけていきたい。